

平成 30 年度
バリアフリー・ユニバーサルデザイン
推進功労者表彰
受賞事例集



平成30年度

バリアフリー・ユニバーサルデザイン

推進功労者表彰受賞事例集の刊行にあたって

内閣府では、バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する優れた取組を広く普及させることを目的として、バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰を実施いたしました。

この表彰は、高齢者、障害者、妊婦や子供連れの人を含むすべての人が安全で快適な社会生活を送ることができるよう、ハード、ソフト両面のバリアフリー・ユニバーサルデザインを効果的かつ総合的に推進する観点から、その推進について顕著な功績又は功労のあった個人又は団体を表彰するものです。

関係府省庁、都道府県、政令指定都市を通じて推薦のあった33件の事例のうち、今年度は、内閣総理大臣表彰1件、内閣府特命担当大臣表彰優良賞3件及び奨励賞2件が選考され、表彰式において、宮腰内閣府特命担当大臣から受賞団体代表者に対し、表彰状が授与されました。

国など行政だけではバリアフリー・ユニバーサルデザインを普及させることはできません。関係機関、関係者が広く本事例集を活用され、様々な分野においてバリアフリー・ユニバーサルデザインへの理解と関心を深め、「国民一人一人が自立しつつ互いに支え合う共生社会の実現」を目指した心温まる活動の輪が広がっていく一助となりますことを期待いたします。



平成31年3月
内閣府

平成30年度（2018年度）バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰式

開催日：平成30年（2018年）12月18日（火）

開催場所：中央合同庁舎第8号館講堂

講

評



平成30年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰を受賞された皆様、誠におめでとうございます。

平成30年度のバリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰には全国から「施設整備」8件、「製品開発」6件、「活動等」19件、計33件の応募がありました。いずれも優れたものばかりで、ご推薦いただいた関係省庁、各都道府県・政令指定都市の皆さまに深くお礼申し上げます。第1次審査では各推薦団体から提出された応募書類により各選考委員が書面上で予備審査を行いました。その結果を基に選考委員会で慎重に協議し、現地調査候補を選考しました。現地調査では各推薦団体から提出されていた応募書類の事実確認、施設や製品、活動の現状確認、追加ヒアリング等を行いました。最終選考委員会では各委員からの現地調査報告を基に厳正な審議を経て下記6件を今年度の表彰団体として決定しました。

内閣総理大臣表彰を受賞された有限会社エクストラは、視覚障害者の情報入手・提供を国際的視点でとらえた製品開発を進め、その成果として高精度の日本語自動点訳・点字編集ソフトウェアの開発や点字音声携帯情報端末「ブレイルセンスシリーズ」の日本語版ローカライズ等、視覚障害者の快適なモバイル環境の実用化に多大な貢献をされていることが極めて高く評価されました。

内閣府特命担当大臣表彰優良賞を受賞された社会福祉法人愛知たいようの社は、長年にわたり子どもから高齢者までの多世代が共に活動する拠点づくり、入居者主体の特別養護老人ホーム、地域資源を活用した多彩な住まいづくりを積極的に推進している取り組みが高く評価されました。

同じく優良賞を受賞された明石市は、障害を理由とした差別の解消を目指す条例や手話を始め多様な情報・コミュニケーション手段の確立を目指す条例の制定など、全国の模範となる公平な社会の確立に向けた取り組みを強力に推進している点が高く評価されました。同じく優良賞を受賞された合同会社Chupkiは、視覚障害者の映画鑑賞のための音声解説から始まり、現在では常設映画館を持ち、聴覚障害者のための字幕、親子同伴のための専用鑑賞ブースを設けるなど当事者のニーズを的確にとらえた整備と活動が高く評価されました。

また、内閣府特命担当大臣表彰奨励賞を受賞された藤巻進氏は、車椅子スポーツ競技者が自宅でも遠征先でも持ち運びが可能なトレーニングマシンを独自に開発し、パラリンピアンを含む国内外の車椅子競技者から幅広く支持されている点が高く評価されました。同じく奨励賞を受賞された富士見高原リゾート株式会社は、車椅子使用者や下肢不自由者が山間部のリゾートで楽しむことができるアウトドア型車椅子等の導入をはじめ障害者や同伴者が一緒にアップダウンの多い観光地を楽しむことができるハードソフトの活動が高く評価されました。

以上、受賞された各団体のバリアフリー、ユニバーサルデザインの推進事業は、私たちの共生社会をより豊かに発展させていくものと確信します。これらの受賞事例は、今後国内ばかりでなく海外へも広く発信されていくことが期待されます。最後になりますが、沢山の応募団体をご推薦して頂きました、都道府県・政令指定都市をはじめ全国各地の関係諸機関に改めて深く感謝申し上げます。

バリアフリー・ユニバーサルデザイン

推進功労者表彰選考委員会

委員長 高橋 儀平

目次

内閣総理大臣 表彰（1団体）

有限会社エクストラ	1
-----------	---

内閣府特命担当大臣表彰 優良賞（3団体）

社会福祉法人 愛知たいようの杜	3
-----------------	---

明石市	5
-----	---

合同会社 <small>チュプキ</small> Chupki	7
---------------------------------	---

内閣府特命担当大臣表彰 奨励賞（2団体）

藤巻 進	9
------	---

富士見高原リゾート株式会社	11
---------------	----

過去の受賞者一覧	14
----------	----

バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰要領	22
----------------------------	----

選考委員会委員名簿	23
-----------	----

内閣総理大臣 表彰

厚生労働省推薦

有限会社 エクストラ

(静岡県静岡市)

【概要】

- 有限会社エクストラは、視覚障害当事者である同社技術顧問を中心に視覚障害者向け支援機器及びソフトウェアの開発・ローカライズ・販売を行っている。特に視覚障害者の情報支援に関する製品の制作に力を注ぎ、情報弱者と言われてきた視覚障害者が楽しみながら活用できる世界の先端支援技術を提供することにより、視覚障害者がテクノロジーを活用して障害による不利益を少しでも減らすことを目指している。

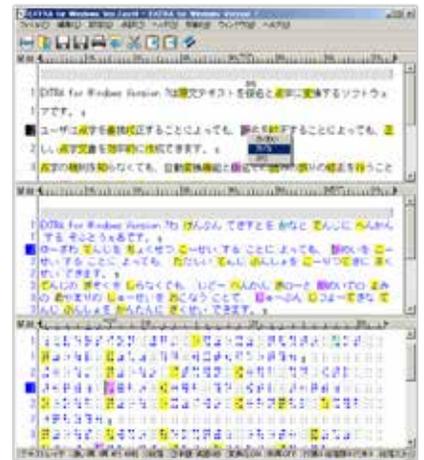
【特に顕著な功績・功労】

- 自動点訳ソフト「EXTRA」の開発

日本語文書の点訳は専門知識を要する作業であり、点字文書を作成するには点字に精通した点訳者が必要だった。また、精度が高い点訳を自動で行うソフトウェアは無く、日本語の点訳作業は非常に時間と手間の掛かる作業であった。

このため、高精度の日本語自動点訳・点字編集ソフトウェアの開発を行い、平成13年に「EXTRA for Windows2001」をリリース。「EXTRA」を点訳作業に導入することで、元の日本語文書を高水準の点字文書に一括して変換することが可能となった。

これにより、点訳者の点字文書作成作業負担を大幅に減らし、点訳作業を大幅に効率化した。



日本語自動点訳ソフトウェア
「EXTRA」(パソコン画面)

➤ 海外の視覚障害者向けのソフトウェアや支援機器のローカライズ

・視覚障害者が最新のコンピューターを使うために必要なスクリーンリーダー「JAWS for Windows」や画面拡大ソフト「Zoom Text」といった、視覚障害者がコンピューターの活用に必須の海外ソフトを日本向けにローカライズすることで、視覚障害者が最先端のITに触れる環境づくりと、就労支援、教育支援等に貢献。



視覚障害者による「JAWS」実演

・点字キーボードで文字やコマンドを入力し、点字ディスプレイと音声で情報を出力する点字音声携帯情報端末「ブレイルセンスシリーズ」(英語版)の日本語版へのローカライズに注力。「ブレイルセンス」を使うことで、視覚障害者及び視覚聴覚の重複障害者が点字を用いた操作で電子メールやWebから自由に情報を取得できる環境を実現。



ブレイルセンスポラリス

➤ このように同社は、使用する際のユーザーの状況や目的をしっかりと想定した機能を備え、日常の場面に加えて高度な専門性を必要とする場面でも十分に使える機能を備えた製品を制作しており、障害者への支援を目的とした支援機器の開発に関する成功事例だと判断できる。

内閣府
特命担当大臣表彰
優良賞
愛知県推薦

社会福祉法人 愛知たいようの杜

(愛知県長久手市)

【概要】

- 子供から高齢者まで多世代が共に生きるコミュニティの実現を目指し、社会福祉法人愛知たいようの杜は、特別養護老人ホーム「愛知たいようの杜」、ケアハウス「ゴジカラ村雑木林館」、「もりのようちえん」、看護福祉学校「もりのがくえん」等からなる「ゴジカラ村」を創設した。また、ゴジカラ村の各施設、また周辺施設である多世代共同住宅「ぼちぼち長屋」等と様々な場面で連携を図りながら、子供から高齢者、障害者にそれぞれの役割と居場所を提供している。

【特に顕著な功績・功労】

- 特別養護老人ホームは、床や壁は自然の木を使っており、関わる全ての人たちが心地よい空間を創出している。中庭が託児所の遊び場になっていることから「もりのようちえん」の子供たちが遊びに来たり、職員も子連れで出勤しており、入居者は、子供と交流をすることで役割ができ、職員にとっても働きやすい職場になっている。
- 高齢者の自由な外出を認めている。施設に閉じこもりがちな高齢者も外に活発に出ることで、自然や地域住民と接する機会が増え、自分も地域の一員だという認識に繋がり、自分の存在を確かめるきっかけとなっている。



もりのようちえん



特別養護老人ホーム中庭

➤ 定年退職等によりリタイアした地域住民からなる男性の有償ボランティアグループ「きねづかシェアリング」は、長年社会で培ってきた各人の能力を活かし、職員だけでは対応困難なゴジカラ村の雑務、送迎車の運転、安全を守るための巡回、見学者の案内、餌やりなど行い、時には職員の悩みを聞くなどボランティアグループにとって新たな生きがいの場となっている。



有償ボランティア「きねづかシェアリング」

➤ ゴジカラ村の中にある古民家の1つである「どんぐりの杜」では、地域住民が、敷地内の諸施設や近隣で働く方の子供を預かっている。運営は、職員一人を除き全員有償ボランティアで行っており、高齢者を中心に、学生ボランティアや子連れで参加しているボランティアもあり、20代から80代までの多世代が活躍している。子育て中の保護者の支援だけでなく、幅広い層の居場所も創設している。

➤ 多世代共同住宅「ぼちぼち長屋」は、1階に介護が必要な高齢者、2階に独身女性や子育て家族が入居できる。介護等が必要な高齢者の方には話し相手や一緒に夕食をとる人ができるだけでなく、独身女性等にも高齢者と居住空間が一緒であるということで、親近感が沸くなど、一人暮らしの女性や子育て家族にとって「安心」が生まれている。

➤ 子供から高齢者まで多世代共生、そして地域が共に生きるコミュニティを目指した施設であり、一人ひとりに役割と居場所があるという理念のもと、定住者、日中の利用者、園児やその保護者、施設職員やボランティアなど多いときには約1,000人もの人々が生活をともにしている。

子供から高齢者にいたるまで、施設に関係ある者に限らず近隣住民も含め大勢の人々が積極的にこのコミュニティに関わりを持ち、年齢や障害の有無にかかわらず、すべての人が、安全で快適な生活を送ることができるというユニバーサル社会の理念を実現している。

昭和56年から活動を開始しており、築きあげられてきた信用、実績も十分なものであり一つの成功事例となっている。

内閣府
特命担当大臣表彰
優良賞

厚生労働省推薦

明石市

(兵庫県明石市)

【概要】

- 明石市は、こども施策の充実を図るだけでなく、バリアフリー・ユニバーサルデザインの考えを基にした福祉施策に重点を置いたまちづくりを推進している。誰もが暮らしやすいまちの実現に向け、5つのSTEP(手話言語の確立、多様なコミュニケーションの促進、障害差別解消条例の制定、合理的配慮への公的助成、誰もがくらしやすいまちへ)を掲げ、先進的な事業を多数進めている特色のある市である。

【特に顕著な功績・功労】

- 障害を理由とした差別を解消していくことによって、障害のある人もない人も共に安心して暮らせる共生のまちづくりを進めていくために、「障害者に対する配慮を促進し誰もが安心して暮らせる共生のまちづくり条例(通称「明石市障害者配慮条例」)」を制定し、以下の具体的かつ先進的な取組みを実施している。

・合理的配慮の提供を支援する公的助成制度

障害のある人の暮らしにくさは障害のある人の責任ではなく行政(明石市)の責任であるという考えに基づき、平成28年度に全国で初めて公的助成制度を創設。事業者等に合理的配慮の提供をお願いするだけでなく、環境整備については行政(明石市)が責任を持つという姿勢を示すための補助金事業としてだけでなく、合理的配慮の提供の具体的なイメージを事業者に伝える啓発事業を兼ねる形で実施。



合理的配慮の提供を支援する助成制度概要

・タブレット端末の設置

市内の市民センター、総合福祉センター、観光案内所、あかし総合窓口にタブレット端末を設置。手話を主たるコミュニケーション手段とする聴覚障害者が手続き等に来た時にタブレット端末から本庁につなぎ、遠隔で手話通訳者を介して窓口の職員とやりとりを行う。また、電話リレーサービスの利用や市役所への問い合わせができるよう、聴覚障害者にタブレットを貸与している。



タブレット端末を使用した遠隔手話通訳

➤ ユニバーサルモニター制度

障害当事者の声を反映したユニバーサルデザインのまちづくりを進めていくために、平成30年2月よりユニバーサルモニター制度を創設し、障害当事者26人がモニターに就任。モニターは、公共施設や宿泊施設、飲食店等のバリアフリー環境や情報アクセスについて、当事者目線で気づいた具体的な提案をすることができる。



ユニバーサルモニターによるユーザビリティチェック

➤ 明石市では、SDGsにも掲げられた「誰も置き去りにしない社会」をつくるという理念のもと、市長の強いリーダーシップにより、まちづくりが行われている。特に「暮らしにくさ」を多く抱える障害者に対しては、その原因を個人の問題にせず、「社会の環境にある」という考えを徹底させ、市民に近い基礎自治体としての責任をまちづくりを進める中で具体的に果たしている。また、行政、事業者、市民が一丸となってまちづくりを進めていく重要性を強く意識し、様々な改革や体制整備に取り組んでおり、自治体の姿勢として高く評価できるものである。

内閣府
特命担当大臣表彰
優良賞

厚生労働省推薦

チュプキ 合同会社 Chupki

(東京都北区)

【概要】

- 視覚障害者の映画鑑賞をサポートする活動から始め、平成28年6月にクラウドファンディングを実施し賛同者を募り、同年9月に、日本初の常設のユニバーサルシアターを東京都北区に開館した。年間300日、1日4回、年間60本程度の作品を上映するほか、音声ガイド製作者養成のためのワークショップ開催、シアターレンタル(映画館設備の時間貸し)等を行っている。

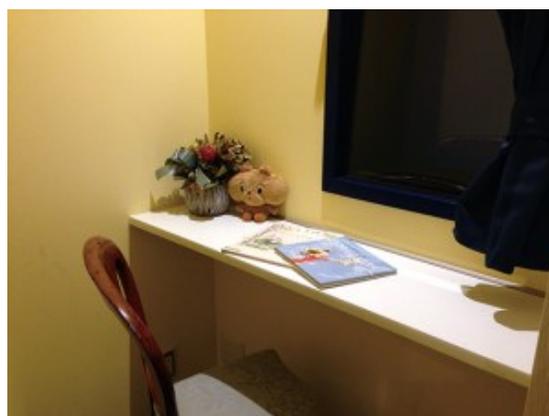
【特に顕著な功績・功労】

- すべての上映作品に、視覚障害者や聴覚障害者対応の音声解説と日本語字幕をつけている常設の映画館であり、定員20人ながら、年間1万人を超える観客を動員。日本映画にも日本語字幕を付加。音声解説と日本語字幕の付加されていない作品は、独自に制作している。



映画館外観

- 館内はバリアフリーへの配慮が行き届いており、入口からトイレ、客席後方の車椅子スペースまで車椅子に乗ったまま移動が可能となっている。防音ブースの親子鑑賞室を設置。子供同伴の観客は親子鑑賞室に入れば、周囲を気にすることなく映画を鑑賞できる。

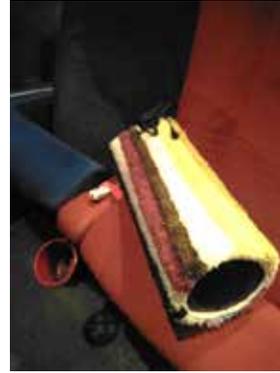


親子鑑賞室

- 座席には、音量調節機能のあるヘッドフォン端子が備わっており、持参や貸し出しのイヤホンで音声解説を聴くことができ、耳のきこえが良くない人は映画の音をイヤホンで増幅して聴くこともできる。また、振動で音を聴く「抱っこスピーカー」を用意し、利用者にあわせて提供する工夫をしている。



音量調節機能のある
ヘッドフォン端子



抱っこスピーカー

- この映画館には、社会的バリアとなる「障害」そのものがないため、チケット代金の障害者割引もない。その代わりに、ヘルパーパスの発行や(ヘルパーの料金は免除となるカード、利用者がヘルパーの分まで負担しなくてもよい。)や、障害が理由で職に就けず、経済的貧困を抱えたお客様には、「プアエイド」という割引サービスを行っている。
- 障害者にとって映画を楽しむという新たな娯楽の機会が増え、生活の質の向上にも繋がっている。
- 健常者も障害者も誰もが安心して一緒に映画を楽しむことができる、全ての人に開かれたユニバーサルシアターである。この映画館は商店街の中の建物の1階にあり、気軽に立ち寄れる雰囲気。街の人々が障害を持った人との関わりに慣れ、学び、交流するきっかけになっている。アニメファンに人気の作品や声優による音声ガイドなど新しいファン層を広げる工夫を継続して行うとともに、地方の映画祭、地域の上映会のユニバーサル化への協力も積極的に行っており、今後の波及効果も期待できる。

内閣府
特命担当大臣表彰
奨励賞

静岡県推薦

藤巻 進

(静岡県富士市)

【概要】

- これまで大型でスポーツ施設等の常設タイプであった車椅子スポーツ競技者向けのトレーニングマシンの軽量化・コンパクト化を実現し、自宅はもちろん遠征先にも持ち込んで気軽かつ安全にトレーニングをすることを可能とした。

【特に顕著な功績・功労】

- これまで誰も製作してこなかった、家庭で使用できる車椅子スポーツ競技者向けのトレーニングマシンの開発に携わり、初めて製品化に成功した。

- 使用者のニーズを聞きながら、身体や車椅子に合わせて一台一台全て手作業でオーダーメイドしている。試行錯誤を繰り返し、様々な改良や工夫を施した製品を開発し使用者からも好評を得ている。



- 自宅や遠征先に持ち込んで気軽かつ安全にトレーニングすることが可能となり、選手等のトレーニング環境が大きく改善した。このことは使用者のパフォーマンスの向上に繋がり、競技レベル全体の向上にも寄与している。



パラリンピックトップアスリートによる
トレーニング機器の活用

- 現在、パラリンピック出場者等トップアスリートの多くに愛用されているほか、ラグビー用については、リオパラリンピック日本代表のトレーニングマシンに正式採用された。また、韓国、中国、ロシア、アメリカ等の陸上競技連盟からも受注し、既に30台以上を輸出している。現在も口コミを中心に評判が広がり、月4～5台のペースで受注・製作を行っている。
 - 車椅子スポーツに対する愛情と選手に対する敬意をもって製品開発に当たっている。製品には、開発のプロセスにおける選手や愛好家との交流から生まれた「障害者の視点」が強く反映されている。
 - 独創性かつコンパクトさを追求する姿勢、車椅子使用者の気持ちに沿ったサポート、選手の練習環境の改善や経済的自立を常に意識し常に発信を続け、障害者スポーツ競技への関心を高めることに貢献している姿勢は評価できる。
- また、使用者のニーズに応え得るトレーニングマシンの開発を続けるとともに、障害者が日常的な体力を維持するため利用するマシンの開発も行っており、今後も使用者の増加が期待できる。



トレーニングマシン



トレーニングマシン

内閣府
特命担当大臣表彰
奨励賞

長野県推薦

富士見高原リゾート株式会社

(長野県諏訪郡)

【概要】

- 美しい山の自然を、子供や高齢者、障害者と介助者や家族など誰もが共に感じ楽しむことができる場所を「ユニバーサルフィールド」とし、環境の保持、経済性を担保しながら、障害者、家族が共に楽しめる環境づくりを平成22年から進めている。多様な移動手段を用意することにより、山岳高原地域の自然環境を維持したうえで、障害者、高齢者、乳幼児等歩行に不安を抱える利用者とその家族が共に楽しめるよう改善を図り、普及活動にも尽力している。

【特に顕著な功績・功労】

- 車椅子利用者が自然環境下で楽しむための機器の導入

体力的負担が少なく利用できる補助機器があることで、障害の有無に関わらず誰もが利用しやすい観光地となっている。車椅子利用者はもちろん、歩行に不安を抱える高齢者などにも活用され、「歩きたい時は歩く」といった使い分けも可能となっている。

・アウトドア用車椅子「HIPPO」

大きなタイヤと介助しやすく伸びた持ち手により、バリアフリーのための遊歩道整備よりも環境負荷が少なく、より自然に触れ合うことができる水陸両用車椅子。

・けん引式車椅子補助装置「JINRIKI」

利用者の車椅子の前面に装着することで、前輪を浮かせ、芝生や砂利の上での走行を可能とする補助装置。車椅子の前後に介助者がつくことができる利点から、坂道においても手軽に利用できる。



けん引式車椅子補助装置
「JINRIKI」

- 歩行弱者及びその家族が共に高原環境を楽しめるように整備した自動で走行する乗用カート

の運行(「天空の遊覧カート」「花の里周遊カート」)

自動で方向転換等を行うカートで、時速3kmのスピードで走行する。普段乗り物に乗る機会の少ない障害者や高齢者、児童でも安心・安全、気軽に、標高差200Mの展望台からの眺め等を楽しむことができる。また、駐車場から遊覧カート入口の間に動く歩道を設置するなど、高齢者等の負担軽減のための環境を整備している。



自動で走行する乗用カート

- 学習旅行における機器(デュアルスキー等)の利活用

スキー場において、学習旅行(スキーレッスン)を実施しているが、障害等により参加困難な児童生徒が自然体験を共にできる環境整備として、椅子の下に2枚のスキーがあり、後方の介助者が操作を行う「デュアルスキー」等を導入、スキーの体験機会を提供している。



デュアルスキー

- 障害当事者、研究機関、行政、民間企業との連携体制を構築

「JINRIKI」等の改善改良、車いす利用者の屋外活動における衣料品の開発、地域介助人材の育成研修によるトラベルサポーター養成と受入れの仕組みづくり、地域支援学校や福祉施設と協働した受入れ環境整備等も行っている。

➤ 同社の「高齢や障害を理由に山や森に行く観光を、ご本人やそのご家族、ご友人にもあきらめないでほしい」との理念のもとに提供されている旅行やレジャーの分野でのバリアフリー環境の整備は、quality of lifeの向上という面で大きな意義があり、取り残されがちな障害者・高齢者の社会参加を促進する観点から評価することができる。

また、今年度設置された「長野県ユニバーサルツーリズム推進会議」に携わり、観光事業者やユニバーサルに取り組む団体と積極的に連携し、各地で行われるイベント等に道具の貸し出しや展示、講習会を行うなど「ユニバーサルツーリズム」の推進に尽力しており、波及効果も期待できる。

バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰

～これまでの受賞者一覧～

	第1回受賞 平成14年度 (2002年度)	第2回受賞 平成15年度 (2003年度)	第3回受賞 平成16年度 (2004年度)
内閣総理大臣表彰	新井リゾート開発株式会社	京成ホテル株式会社	湖南省
	下田タウン株式会社		南砺市
内閣官房 長官表彰 (第3回までは、 内閣官房 長官表彰 となる。)	Accessible盛岡	伊勢佐木町1・2丁目 地区商店街振興組合	荒 由利子
	伊丹市	岐阜経済大学まちなか 共同研究室マイスター 倶楽部	伊予鉄道株式会社
	財団法人共用品推進機構	訓子府町	株式会社 イトーヨーカ堂
	株式会社京急 ファインテック	医療法人圭佑会 澤歯科医院	株式会社 オリエンタルランド
	財団法人 すこやか食生活協会	伊勢原・誰もが住みよ い街づくり懇話会	高齢者住宅環境整備 ボランティア会
	NPO デイヘルプ	NPO 日本サスティナブル・コミュニティ・センター	仙台シニアネットクラブ
	NPO 福祉のまちづくり 市民ネットワーク	肥後タクシー有限会社	独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備 支援機構、 九州旅客鉄道株式会社
	バリアフリーデザイン 研究所	広島電鉄株式会社	
	むくどりホーム・ ふれあいの会	福岡県田川郡 大任町立大任小学校	トヨタ自動車株式会社
		村山 輝子	
	有限会社料亭こもだ		

- 1 「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」は、第6回までの間、「バリアフリー化推進功労者表彰」として実施
- 2 「受賞者」の名称は当時のままの名称で記載している
- 3 NPOとは、特定非営利活動法人(NPO法人)の略。

	第4回受賞 平成17年度 (2005年度)	第5回受賞 平成18年度 (2006年度)
内閣総理 大臣表彰	東陶機器株式会社	コクヨ株式会社
	NPO 大阪障害者雇用 支援ネットワーク	
内閣府 特命担当 大臣表彰	大牟田住まい・まちづくり ネットワーク	ケア付き青森ねぶた 「じょっぱり隊」
	奥野 花代子	京王電鉄株式会社
	東京急行電鉄株式会社	公立豊岡病院組合
	福岡市交通局	NPO シーエス障害者 放送統一機構
	有限会社雅樹雅	とっておきの音楽祭 実行委員会 SENDAI
	有限会社ハートフル・ウィング	富山ライトレール株式会社
		平田観光株式会社
		THE MAGICAL TOY BOX

	第6回受賞 平成19年度 (2007年度)	第7回受賞 平成20年度 (2008年度)
内閣総理大臣表彰	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	品川区立戸越台中学校
	中部国際空港株式会社	富士ゼロックス株式会社
内閣府特命担当大臣表彰 (優良賞)	岡山県立興陽高等学校	イオン九州株式会社 イオン鹿児島ショッピングセンター
	花王株式会社	泉北若松台A B住宅 団地管理組合
	京都リップル	全国障害学生支援センター
	NPO 全国視覚障害者情報提供施設協会	豊中市
	凸版印刷株式会社	横浜市交通局
	はあとねっと輪っふる	
	兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所	
	ユニバーサルデザインリフォーム プラザ静岡	
内閣府特命担当大臣表彰 (奨励賞)	大洗サーフ・ライフセービングクラブ	池野通建株式会社
	大阪市交通局	五木村立五木中学校・ 熊本県立人吉高等学校五木分校
	大日本印刷株式会社	株式会社袖ヶ浦自動車教習所
	トーフ株式会社	NPO 伊勢志摩バリアフリー ツアーセンター
	NPO 子育て支援のNPOまめっこ	NPO 市民生活支援センター ふくしの家
		NPO はままつ子育てネットワーク ぴっぴ
		NPO プロジェクトゆうあい
		ピュア・フィールド風曜日
		北極しろくま堂有限会社

	第8回受賞 平成21年度 (2009年度)	第9回受賞 平成22年度 (2010年度)
内閣総理大臣表彰	株式会社東京信友	NPO Color Universal Design Organization
		日本理化学工業株式会社
内閣府 特命担当大臣表彰 (優良賞)	愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院	株式会社サン工藝
	カシオペア連邦はーとふる発見隊	株式会社特殊衣料
	株式会社タカラトミー	株式会社日立製作所 ユニバーサルデザイン 出前授業プロジェクトチーム
	財団法人安全交通試験研究センター	東京電力株式会社
	財団法人明治安田こころの健康財団	NPO ウィズアス
		有限会社アイ・シー・アイ デザイン研究所
内閣府 特命担当大臣表彰 (奨励賞)	尼崎交通局	あい・あーる・けあ株式会社
	NPO 子育てネットすくすく	刈谷市総合文化センター アイリス
	NPO 多文化共生センターきょうと	
	NPO ユニバーサルデザイン・結	

	第10回受賞 平成23年度 (2011年度)	第11回受賞 平成24年度 (2012年度)
内閣総理 大臣表彰	ケージーエス株式会社	シナノケンシ株式会社
		社会福祉法人 全国手話研修センター
内閣府 特命担当 大臣表彰 (優良賞)	オムロン ソーシャル ソリューションズ株式会社	NPO UDくまもと
	株式会社富士レークホテル	埼玉県警察本部交通部交通規制課
	株式会社 湯郷プラザホテル 季譜の里	社会福祉法人 太陽の家 サンストア
	株式会社らむれす・三角山放送局	日進市立図書館
	NPO まちづくり推進機構岡山	南医療生活協同組合
内閣府 特命担当 大臣表彰 (奨励賞)	国際ユニバーサルデザイン協議会	早稲田大学ボランティアサークル 積み木の会

	第12回受賞 平成25年度 (2013年度)	第13回受賞 平成26年度 (2014年度)
内閣総理 大臣表彰	日本聴覚障害学生高等教育支援 ネットワーク (PEPNet - Japan)	和歌山県立博物館施設活性化事業 実行委員会・和歌山県立博物館
内閣府 特命担当 大臣表彰 (優良賞)	株式会社アメディア	藤野 稔寛
	NPO ケーネット知楽市	株式会社電制
		日本ブラインドサッカー協会
内閣府 特命担当 大臣表彰 (奨励賞)	いしかわ総合スポーツセンター	大口町立大口南小学校
	有限責任事業組合 A S I 栃木	てまるプロジェクト
	有限会社川藤	
	京都府立京都八幡高等学校・ 京都府立八幡支援学校	
	シティホールプラザアオーレ長岡	

	第14回受賞 平成27年度 (2015年度)	第15回受賞 平成28年度 (2016年度)
内閣総理 大臣表彰	株式会社オーエックス エンジニアリング	株式会社ジェイ・ティ・アール
		株式会社静岡新聞社・ 静岡放送株式会社 メディア・ユニバーサルデザイン プロジェクトチーム
内閣府 特命担当 大臣表彰 (優良賞)	公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団 横浜能楽堂	有限会社さいとう工房
	川端鉄工所株式会社	なにわ一水
	株式会社主人公	
	地域共生型 福祉施設整備協議会	
内閣府 特命担当 大臣表彰 (奨励賞)		ヤマハ株式会社新規事業開発部 SoundU Dグループ
		座間キャラバン隊

	第16回受賞 平成29年度 (2017年度)	第17回受賞 平成30年度 (2018年度)	第17回までの 受賞件数
内閣総理 大臣表彰	仙台市交通局	有限会社 エクストラ	内閣総理大臣表彰 26件
	全日本空輸株式会社・ ANAウイングス株式会社		
内閣府 特命担当 大臣表彰 (優良賞)	石狩市	社会福祉法人 愛知たいようの杜	内閣官房長官表彰 (1回～3回) 28件 内閣府特命担当大 臣表彰 (4回・5回) 14件 内閣府特命担当大 臣表彰 優良賞 (6回～17回) 51件
	株式会社エスコアール	明石市	
	道の駅 常陸大宮	合同会社 Chupki	
内閣府 特命担当 大臣表彰 (奨励賞)	オプトニカ工房有限会社	藤巻 進	内閣府特命担当大 臣表彰 奨励賞 (6回～17回) 37件
	篠原電機株式会社	富士見高原リゾート 株式会社	
	戸田市立笹目小学校		
	株式会社スワン		
			総 計 156件

バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰要領

平成13年11月6日
バリアフリーに関する関係閣僚会議決定
平成29年4月3日
一部改正

1 目的

この表彰は、高齢者、障害者、妊婦や子ども連れの人を含むすべての人が安全で快適な社会生活を送ることができるよう、ハード、ソフト両面のバリアフリー・ユニバーサルデザインを効果的かつ総合的に推進する観点から、その推進について顕著な功績又は功労のあった個人又は団体を顕彰し、もって、バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する優れた取組を広く普及させることを目的とする。

2 表彰の対象

バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進に関して、施設の整備、製品の開発、推進・普及のための活動等において、極めて顕著な、又は特に顕著な功績又は功労のあった個人又は団体

3 表彰者

極めて顕著な功績又は功労があったと認められる者については内閣総理大臣、特に顕著な功績又は功労があったと認められる者については内閣官房長官（ただし、高齢社会対策又は障害者施策を担当する内閣府特命担当大臣が置かれている場合には当該大臣。以下「担当大臣」という。）

4 表彰の方法

表彰状及び記念品

5 表彰の時期

表彰は、年一回行う。

6 表彰の手続

都道府県等から推薦された者のうちから、別に定める選考委員会の意見を聴いて、内閣総理大臣又は担当大臣が被表彰者を決定する。

7 表彰の事務

表彰に関する事務は、関係各省庁の協力を得て、内閣府において行う。

8 その他

この要領に定めるもののほか、表彰の実施に関し必要な事項は、内閣府政策統括官（共生社会政策担当）が定める。

バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰
選考委員会 委員名簿

委員長

高橋 儀平 東洋大学ライフデザイン学部
人間環境デザイン学科教授

委員

勝尾 岳彦 株式会社コンシリウム代表取締役

金子 健 明治学院大学名誉教授

篠 佳子 国立障害者リハビリテーションセンター講師

関根 千佳 株式会社ユーディット会長

同志社大学大学院総合政策科学研究科客員教授

長岡 英司 社会福祉法人日本点字図書館館長

久松 三二 一般財団法人全日本ろうあ連盟常任理事

藤本 浩志 早稲田大学人間科学学術院教授

村田 幸子 福祉ジャーナリスト

(敬称略、50音順)



共生社会政策

内閣府政策統括官(共生社会政策担当)
(参事官(総合調整担当))

〒100 - 8914

東京都千代田区永田町1 - 6 - 1

中央合同庁舎第8号館 8階

電話 : 03 - 6257 - 1445

FAX : 03 - 3581 - 0699

<http://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/bf-index.html>